国試合格に、絶対必要な「七大言語能力」！！
この受験テクニックがあれば、合格率は 80%以上

ことばの研究社

※ これまでの受験者に受験後の感想を聞くと、多くが「抽象問題が難しくて解けなかった」等の感想があった。その他に、「技術関係問題は易しいが、長い文の問題は難しい」等という声も多くあった。
これらの声の共通点は、【日本語文に対する読解能力がない】ことを表している。

※ これらの受験者の声に答えるため、今号では、「受験日までに養わなければならない受験能力」を、実際の国家試験問題を分かり易く取り上げて、解析することにした。　また、受験テクニックの基本も加えて紹介したので、合格者の増加に役立ててほしい。

Ⅰ、【　絶対必要な言語能力は何か？　】

1、設定文の「要約力」が、あるか？

- 左表は、H27 年度に出題された問題だ。
この問題の設定文は、中文で書かれており、文の内容は、Ａさんについての状況と、対応方法が書かれている。　問題文の文脈をおおまかに要約できなければ、Ａさんの「状況と対応方法」が理解できない。その結果、適切な対応方法を 5 つの選択文の中から選び出すことができなくなる。
- 左表の設定文の要約文は、「認知症と診断され、身の回りのことに見守りや介助が必要で、アドボカシーの視点から支援する場合の対応策」となる。この要約文が受験者にできるかが、重要な正解を導き出すポイントとなる。

2、選択文の「文意理解力」が、あるか？

- 文意理解力とは、短い文（単文）の語彙を理解して、文全体の表す意味を理解できる力をいう。
国試の選択文は、全て単文で簡潔に文意を表しているのが特徴だ。　そのため、設定文の要約文を基準に選択文を消去方法で選択することができる。
- よって、上記の視点から解答を得る場合には、1・2・4・5 の選択文は、「アドボカシー」の視点から適切な方法とは言えないので、消去方法により、必然的に 3 が導き出されることとなる。

3、設定文と選択文との「文脈読解力」が、あるか？

- 1 の「要約力」と 2 の「文意理解力」があれば、設定文と選択文との関係をつくる「文脈読解力」が必要となる。　もし、「文脈読解力」があれば、国試問題では消去方法による正しい解答を得る能力が身につけられることに、注目すべきだ。
即ち、日本語に対する「言語能力」があれば、専門知識が少なくても、一般常識から考えて消去方法による解答の導き出しができる。
- この視点から選択文を消去方法で解けば、1 については全く関係がない文。　2 においては、個人の自由を制限するために関係ない。　4・5 については、プライバシー保護の観点から不適切だ。
その結果、必然的に正解文の 3 を導き出すことができるので、アドボカシーの知識がなくても可能だ。

【問題 1】　　　　　　（平成 27 年度の問題 2）
Ａさん（82 歳、女性）は、アルバイト店員の息子（56 歳）と二人暮らしである。　Ａさんは、3 年前にアルツハイマー型認知症（dementia of the Alzheimer’ type）と診断された。　現在、要介護 2 と認定されて訪問介護（ホームヘルプサービス）と通所介護（デイサービス）を支給限度額まで利用している。　Ａさんは、身の回りのことに常に見守りや介助が必要であり、一人で外出して道が分からなくなり、何度も警察に保護されている。　訪問介護事業所が、アドボカシー（advocacy）の視点からＡさんと息子を支援する場合の対応として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

1　自分の食事も作ってほしいという息子の要望に、対応できないと断る。
2　息子の外出時は、Ａさんが部屋から出られないように施錠することを提案する。
3　Ａさんと息子に相談の上、社会福祉協議会に見守りボランティアの派遣を働きかける。
4　息子に、市内に認知症の家族の会があることを知らせる。
5　町内会に、回覧板でＡさんと息子さんの状況を詳しく知らせるように働きかける。

【問題 1 の解説】
1、2、4、5 は×。
アドボカシーとは、権利擁護のことであり、自己の権利の表明が困難な障害者等に代わって援助者が代理することである。
Ａさんの息子さんの外出時の提案、認知症家族の会の紹介はいずれも不適切といえる。
回覧板での広報は、プライバシー保護の観点からも不適切といえる。

3 が〇。
社会福祉協議会は非営利の民間団体であるが、福祉サービス利用者や社会福祉関係者の連絡・調整や活動支援を行っている。　Ａさんについて支援依頼することは適切といる。

Ⅲ【 受験テクニックのポイント！ 】

4、「順番に問題を解く力」が、あるか？

- 国試問題の出題方法は、領域ごとに出題しており、領域を混在して出題されることは、今までにはなかった。　その結果、多くの受験者が技術領域を中心として問題に取り組み、次の領域が難解な領域であった場合には飛ばして、受験者が知っている範囲の領域を優先しながら解答する傾向にある。
- 言語能力があれば、出題の順番に解答することが当然でき、仮に難問に対応したとしても、前述した通り、「文意理解力」と「文脈読解力」によって、消去方法で正解を導き出すことができる。
  その結果、受験者の日本語能力を自分自身が自覚できるために、正しい解答ができる精神状態を作り出すことになる。

5、設定文の「キーワードを探す力」が、あるか？

- 右表、問題2の設定文では「法に基づいて」と「誠実義務」の二つのキーワードがあることに気づかなければならない。　「誠実義務」は、様々な種類があり、何に関する「誠実義務」なのかが明確でない限り、その内容も異なってくる。　この問題では、あくまでも「社会福祉士、及び介護福祉士法に基づいた誠実義務」であることが理解できなければ、選択文の中から最も適切なものを1つ選び出すことはできない。

6、選択文の「キーワードを探す力」が、あるか？

- 介護福祉士は、国や地域の抽象的な課題や問題を追い求めて、それを具現化する立場にはない。　あくまでも、利用者の尊厳を守って、自立できるように利用者の立場で、誠実に業務を行わなければならないことが義務である。　このことを理解していれば、必然的に正解を導き出すことができる問題だ。

7、全問解答後、「見直しをする力」が、あるか？

- ＥＰＡ受験者の場合は、日本人受験者とは異なり、ふりがな付き試験問題を選ぶことができる。
  この処置は、漢字に対して識字力が十分でないと判断し、配慮した結果だ。　そのため、難解な漢字熟語が出ても、ふりがなを読めばわかるために、試験問題の読解能力が高まると勘違いをしている日本人、並びに、国試関係者が多い。
- しかし、ふりがなつき漢字を読めたとしても、その漢字の意味、即ち、語彙理解力がない受験者が多い。その根拠は、過去の国家試験合格率が50%を割ってしまっていることが、証明されている。
  その現状を考えると、「問題を再度見直す能力」は、ほとんど身につけていない受験者が多いと言える。見直す能力がある受験者は、言語能力として一番重要な【瞬時反応能力】が養われていなければ、絶対に不可能なことだ。【瞬時反応能力】とは、ただたんに問題を速く読めるだけではなく、語彙理解をして、文意・文脈を理解する力をも含めた能力をいう。

【問題2】　　　　　　　（平成27年度の問題18）
社会福祉士及び介護福祉士法に基づいて、介護福祉士に課せられている誠実義務に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1　常に担当する利用者の立場に立って業務を行う。
2　国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図る。
3　利用者を心身共に健やかに育成する責任を負う。
4　利用者の心身の健康の保持のために必要な措置を講じる。
5　利用者が安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与する。

【問題2の解説】
1　○　適切。
法律には、その担当する者が個人の尊厳を保持し、自立した日常生活を営むことができるよう、常にその者の立場に立って、誠実にその業務を行わなければならないとされている。
⇒　社会福祉士及び介護福祉士法第44条の2
2、3、4、5　×　不適切。

【学習支援金の適応範囲】

※ 厚労省のＥＰＡに基づく外国人看護師・介護福祉士受入れ関係事業の参考資料3-3によると、「3、介護福祉士候補者に対する学習支援」では、以下のように明記されている。

(1) 受入れ施設が行う候補者の学習に対する支援
　① 候補者の学習支援
　　・ 日本語講師等への受入れ施設への派遣等
　　・ 日本語学校への通学
　　・ 模擬試験や介護技術講習会への参加
　　・ 学習支援に必要な備品購入費用

【到達度試験】参加者の言語教育項目

1. 【瞬時反応能力】を養う
2. 【読解能力】を養う
3. 【文意理解能力】を養う
4. 【文脈理解能力】を養う
5. 【要約能力】を養う
6. 【口答表現能力】を養う
7. 【聴解能力】を養う
8. 【構文能力】を養う

※　到達度試験参加受験者は、上記の言語能力を身につけているために、国家試験問題の「見直し能力」があり、その結果、合格率を毎年80%以上、保持していることが最大の特徴です。　是非、ご参加下さい！

到達度試験参加者の質問レベル
受験者の質問は、どんな？？

1、助詞の違いについて

【質問内容】

来日して2年目の愛知県の受験者Aさんから、「先生、「私は」と「私が」の違いがよく分かりません。
もう一つ、「学校に行く」と「学校へ行く」は同じですか。　日本人は、どうやって使っているんですか。教えて下さい。」

【解説】

- 「は」と「が」の違いは、日本人でも説明しろと言われると、明確に説明できない助詞だ。
「は」は物事を知らない人に説明する時に用いて使う。例えば、「私は口口です。」と自己紹介等で説明するために用いることを考えれば、理解しやすい。
それに対して、「は」で説明された中から一つを選択して、強調する意味を持つ助詞が「が」だ。
- 「に」と「へ」の違いは、後ろに続く動詞の違いによって、用法が違う。　例えば、「口口にいる。」であれば、「口口へいる。」は日本語として不正確なことは誰もが理解できる。
しかし、「口口に（へ）行く。」となると、どちらが正しいかを明確に答えられる日本人は、少ない。
「に」は目的を表す助詞であり、「へ」は経由（経過）を表すもののために、「長く滞在しない地点」の意味を持つ。　最近では、文意をぼかすために、特に若者が「へ」を用いる傾向が強いために、外国人にとっては混乱をきたしている。

2、動詞の違いについて

【質問内容】

来日して1年目の山梨県の受験者B君からは、「先生、「座って」と「座っていて」は、同じですよね。
それから、「水が流れる」と「水を流す」のように、助詞と動詞が変わるので、分からいです。」

【解説】

- 「座る」の動詞変化は、「座ります・ってます・りました・りません」だ。　それに対して、「座っていて」は「座る＋いる」の複合動詞であるために、その意味の違いは、「座って」は静止の点表現で、「座っていて」は状態・継続の線表現だ。状態が長く継続している場合には、「座っていて」を用いる。
- 「水が流れる」は自動詞で、「水を流す」は他動詞だ。「水を流れる」は、正しくない。　その理由は、助詞「が」は、その物自体を表す助詞なので、動詞も自動詞を使わなければ文意が通じない。
「流す」は人が水を動かすために、他動詞となる。
よって、助詞「を」は、目的の意味を持つもので、他動詞を必ず用いなければ、文意が通じない。
即ち、「が」＋自動詞で、「を」＋他動詞の規則性があることを教えなければならない。

3、「い形容詞」と「な形容詞」の違いについて

【質問内容】

来日して2年目の静岡県の受験者Cさんから、「先生、「美しい」と「綺麗」はどう違いますか。」

【解説】

- 形容詞には「い形容詞」と「な形容詞」があり、「い形容詞」は、全て和語の形容詞だ。　しかし、和語形容の中には、「な形容詞」もあるが、その比率は、非常に低い。　そして、漢語と外来語の形容詞は、全て「な形容詞」だということを理解させれば、全体把握ができる。
- 和語と漢語と外来語の持つ音からのイメージを理解させることが、重要な要素となる。
和語の音は、「柔らかくて、深い意味を持つ音」であり、漢語のは、「硬くて、音だけでは意味が分からない」場合が多い。　なぜならば、同音異字語が多いために、漢字が持つ意味を理解できなければ、音だけでは何の事か分からない。
外来語は、中国以外の国の言葉で、文字は基本的にカタカナ文字を使うため、高い音で高低音が激しい。　さらに、外来語の多くは、日本人が発しやすいように、和製音化されている。
- このような日本語を構成している「和語・漢語・外来語」の全体を把握した上で、「美しい」と「綺麗」の差を理解させることが重要だ。
「美しい」は自然の美の表現であり、「綺麗」は、人が手を加えた人工美を表すために、そこから生じてくる言葉の違い「語感」の違いが、話者間において、大きな想像に対する差を生み出す。

4、和語・漢語・外来語の使い分け方について

【質問内容】

来日して1年目の兵庫県の受験者Dさんから、「先生、「お店が開く」と「開店する」と「オープンする」は、同じですよね。」

【解説】

- 初めて開く時には「開店」、「オープン」も初めての場合が多い。　だが、「開く」は、初めての時もあるが、時を表す言葉。　例えば、「8時にお店が開く」の違いがある。　即ち、三語ともに大意は同じだが、その用い方で聞き手側が想像する情景が変化してくるので、このような三語の使い分けは、外国人にとっては非常に難しい。
- そのために、一定の言語能力がついた後には、「語感教育」並びに、「文調教育」を行う必要がある。　一般的に、このような質問を受けた場合「同じだよ。」と返答する人が大半だ。　しかし、日本人の子供の質問も、このような質問が多いことに注目すると、外国人対応を特別に考える必要はない。

自学能力を養うための　適切な教材！！

EPA学習支援
スカイプ・教材の問い合せ先
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX　：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

① 視覚的に学べる　　②日本語の「規則性と用法」が学べる

③ 漢字も類推して読める　　④ ストーリー性があり、体系的に作られている

学習支援　主教材

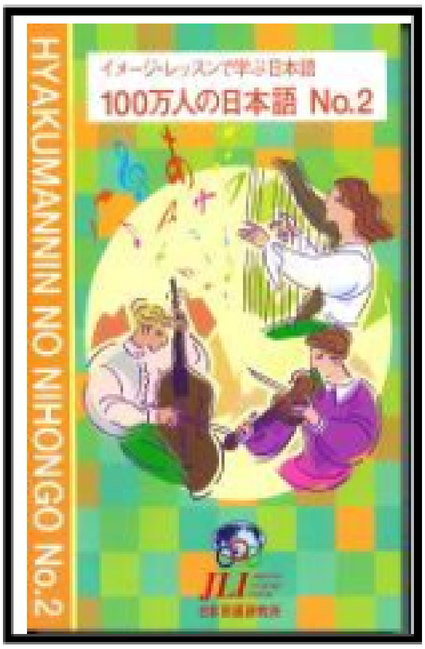
基礎言語能力レベル

【テキスト「100万人の日本語　No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。（2,805円）

※　習得漢字数　310字～620字

※　習得語彙数　520語～1560語



【テキスト「100万人の日本語　No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。（2,805円）

※　習得漢字数　420字～840字

※　習得語彙数　570語～1,710語

生活言語能力レベル

【テキスト「100万人の日本語　No.3」】

日本社会に適応できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。　（3,300円）

※　習得漢字数　850字～1,700字

※　習得語彙数　1,110語～3,330語

使ってみてビックリ！
教育効果の高さ

学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、受験者だけで勉強できる教材

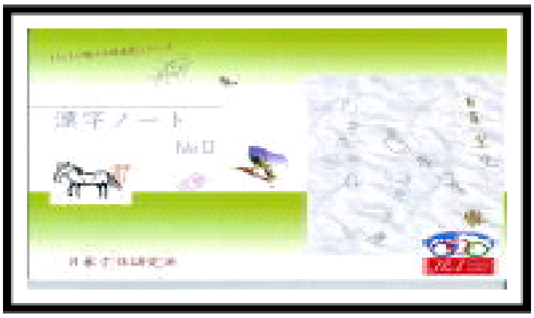
表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の 3 種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。
（1,155 円）

ひらがな文字の自学に最適な教材です。 字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもんとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。
社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。
（1,980 円）

『100 万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。
非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。
また、中国人学習者にも同様です。 （1,496 円）

生活言語能力レベル

カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。 このノートは説明文と会話文が織り成されてされています。 この場面を紹介する文は、外来語の理解とその音出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。
（1,496 円）



『100 万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。
非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。
また、中国人学習者にも同様です。 （1,496 円）

学習支援

EPA学習支援 コース
【覚えるのではなく、理解させる A コース】

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目　到達度試験　初回レベル～Dレベル】

※　【自学能力】を養うことを目的としたコースです。言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材　・「100万人の日本語№1」（日本語の規則性と用法育成用）
・「100万人の日本語№2」（中文読解と文脈理解育成用）

副教材　・ひらがな絵かーど（瞬時反応能力育成用）
・ひらがなのーと　（構文力育成用）
・カタカナノート（説明文・会話文の用法育成用）
・漢字のーと1（基礎漢字と文型理解育成用）
・漢字ノート2（熟語漢字習得育成用）
・手渡し教材随時

【二年目　到達度試験　Eレベル～国試3レベル】

※　日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。　そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけではなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※　主教材　・「100万人の日本語№3」（日本語の運用と活用育成用）

副教材　・手渡し教材随時
・国家試験過去問題集

【三年目　スカイプ授業　5回(1回2時間)】

※　日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的したコースです。

※　主教材　・専門参考書

副教材　・手渡し教材随時
・国家試験過去問題集

【指導内容】
① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
② 類推力の育成で専門用語（熟語漢字）の対応指導
③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】
※　【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。
※　スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。
※※　価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力をが養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二年目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三年目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約能力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

学習支援

四つの言語技能(聞く・話す・読む・書く)が、同時に高まるBコース

◎ 到達度試験Bコース(併用型)
＜ おまかせコース ＞

【一年目 到達度試験(初回~Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」（日本語の規則性と用法育成用）

・「100万人の日本語No.2」（中文読解と文脈理解育成用）

副教材 ・ひらがな絵かーど（瞬時反応能力育成用）

・ひらがなのーと （構文力育成用）

・カタカナノート（説明・会話文の用法育成用）

・漢字のーと1（基礎漢字と文型理解育成用）

・漢字ノート2（熟語漢字習得育成用）

【二年目 到達度試験(E~国試1レベル)+スカイプ】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけではなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.3」（日本語の運用と活用育成用）

副教材・手渡し教材随時 ・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2、3レベル)+スカイプ】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的したコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時 ・国家試験過去問題集

【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
- ② 類推力の育成で専門用語（熟語漢字）の対応指導
- ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目	★基礎言語能力の育成 ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。 そのために、確実な日本語力が養える。 ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。 ④簡単な業務日誌が書ける。 ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。
二年目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。 ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。 ②専門用語の漢字を「類推して読め、意味理解」できる。 ③自学で「過去問」を解ける。 ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。
三年目	★職域言語能力の育成 ①業務の実践力を養う。 ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。 ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。 ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。 ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。 ③マークシートの解答ではなく文章による解答ができる。 ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】　**EPA学習支援　ことばの研究社**

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。　教育効果は介護分野では、国家試験合格率を **3年間連続で、80％以上の実績を誇っています。**　また、看護分野でも、ＥＰＡ受験者全体の合格率が 10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%** と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率 10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は､あくまでも､専門領域で社会人として働ける能力を養うことを､重要視した学習方法です。さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。　「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 ％ 専門学校卒の言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・瞬時反応 ・文脈読解力 ・要約力など	職域言語能力を養う
2段階	90 ％ 専門学校 2 年の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習をさせる。	★ 4 技能 ・瞬時反応 ・漢字熟語力 ・文脈読解など	
1段階	90 ％ 専門学校 1 年の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」（語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・瞬時反応力 ・文意読解など	
F段階	85 ％ 高校 3 年の言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で学習させる。	★ 4 技能 ・瞬時反応力 ・文意読解など	
E段階	80 ％ 高校 1 年の言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・文読解力 ・図読解力など	生活言語能力を養う
D段階	75 ％ 中学校 2 年の言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・対応力 ・要約力など	
C段階	70 ％ 小学校 6 年の言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・瞬時反応力 ・文脈力　など	
B段階 N2 レベル	70% 小学校 4 年の言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な知識とその使い分け」ができる能力を中心として学習させる。	★ 11 技能 ・瞬時反応力 ・読解力など	基礎言語能力を養う
A段階 N3 レベル	75 ％ 小学校 3 年の言語能力	・構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・瞬時反応力 ・文字認知力 ・読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		